

## 異世代交流 ソバ打ち体験教室

1月17（土）午前10時から十三公民館で異世代交流ソバ打ち体験教室を開催しました。

この事業は、親子、高齢者等のふれあいの場を設けることによって、人と人の絆を深め地域コミュニティの活性化を図るもので、この日は児童13名、保護者及び高齢者24名の合計37名が参加しました。

ソバ打ちの講師には、九頭龍工房JAひみそば道場の荒木稔さん（仏生寺）、上裕美さん（見内）、干場芳美さん（柿谷）にお願いしました。



小麦粉の混合割合や水分量などの説明を聞いたあと、3グループに分かれて混ぜ合わせ、水回し、ねりこみ、へそ出し、まる出し、四つ出し、切りまでみんな交替で行いました。

出来上がったソバは茹で担当が時間を図りソバが絡まないよう慎重に茹で上げていました。茹で上がったソバにつゆをかけてみんなで一緒にいただきました。

参加した人は、以前から興味があり毎年参加させていただいています。そばを打つには先ず道具をそろえる必要がありますが、現役でもありそばを習う時間がとれるか心配で、二の足を踏んでいますと話しました。

打ったソバは全員が切りまで体験しました。不揃いの太さのそばを評価しながらわいわい言いながら楽しく味わいました。三世代交流事業として実践することができ、地域の絆を強くする事業として、今後も続けていきたいと考えています。



# 十三地区の史跡・伝承

## 仏生寺地区

### 行者山

寺中の御田神社と県道を挟んだ向かい山に「行者山」という所がある。県道から林道と行者道とを約三百メートル程歩いた所に行者が住み、特異な験力を獲得するため難行苦行を日課としていた。

建長年間、御田神社の境内に金鶏山仏生寺が建立され寺は大いに栄え、多くの社僧・山伏・修験者らが、社務・神前に奉仕していたころだろうか。

行者は自ら生き埋めになって修行する即身成仏の荒業を決意。村人たちは念仏を唱えて見送る中、行者は鐘を鳴らし、念仏を唱え、干し柿十個、ごま五十粒をもって入棺。村人らは棺を穴の中に埋め、竹の管を地上へ通し土盛りした。

行者山の一段高い所に、高さ二メートル・直径五メートル程の円墳状の所があるが、そこが埋められた所か。

古老の話では、修行は三年間とも八年間とも言う。

御田神社の境内に「蠟燭石」と呼ばれる石造物がある。長さ約百二十センチ、上部約三十センチ角、下部約二十センチ角。上部に蠟燭の芯部があり、下部に蠟燭を立てる装飾用のえぐりがある。かつては盤持ち石として若衆に親しまれ、下部のえぐりに手を掛け、下部を持ち上げるだけで、米六十斗持ち上げるのに匹敵するといわれた。

石の側面に文字らしきものが刻まれているが不明。

この石はもと行者山にあり、江戸末期、小八という力自慢がかついでお宮の境内まで運んだものという。

## 2月の講座案内



講座名	曜日	実施日	時間	団体・講師名
詩吟	月	2日・9日16日	13時30分～	大賀さよ子先生
手芸	火	3日・10日・17日・24日	13時00分～	
詩吟	水	4日・11日・18日・25日	13時30分～	斉藤美紀子先生
3B体操	木	5日・12日・19日・26日	14時00分～	堀川絹代先生
バランスボール	日	15日	10時00分～	浦野 司先生
オカリナ	金	13日・27日	14時00分～	尾崎春夫先生